

はぐくむ

vol.79
2023年 7月号

- がん患者様の“痛み”を取り除く
適切かつ安全な専門的疼痛治療を提供
- 藤本泰久医師が東久邇宮記念賞を受賞
- 放射線治療科がリニアックの1500日間の
無停止・連続稼働の達成により表彰

- 新任医師紹介
- 臨床工学室 関西・大阪ブロック
新入職者合同研修

• Take Free •

ご自由にお持ち帰り下さい

がん患者様の“痛み”を取り除く

適切かつ安全な専門的疼痛治療を提供

私たちが感じる“痛み”は通常、時間経過と共に消えていく、或いは何らかの治療により改善されていくものですが、がんによる痛みは必ず起こり、通常は、その進行度によって徐々に強くなります。痛みが続くと患者様は食欲不振や不眠、苦痛等の症状を訴え、がん治療そのものが上手く進まないのが、医療の限界として指摘されてきました。当院の「がん疼痛治療科」は、がん患者様一人ひとりの病態やライフスタイルに合わせて、「痛みや苦痛を取り除く」最適な治療を検討し提供する診療科として、今年4月に開設されました。

がんの痛みを緩和するためには貼付、内服、注射薬、神経ブロック療法、脊髄鎮痛法等、様々な治療法がありますが、一般的な鎮痛薬の調節に加えて、「オピオイド鎮痛薬」（麻薬性鎮痛薬）の調節による痛みの軽減に取り組んでいます。

「麻薬」にネガティブなイメージを持つ方もおられますが、現在では安全かつ有効に活用する治療法が開発され、国の「がん対策推進基本計画」でも、がんの疼痛緩和に用いられる医療用麻薬の使用が推進されています。

現段階で内服薬だけで“痛み”のコントロールが可能であっても、がんが進行すると今後、“痛み”が増す可能性があるので、抗がん剤治療等と並行し、その他の専門的疼痛治療を行うことが重要になります。

そうしたケースで、私たちはインターベンション治療というカテーテルを体内に注入する治療法を行っています。前出「神経ブロック療法」は、“痛み”を感じる神経だけに薬剤を注入してブロックし、“痛み”を緩和させる療法です。「脊髄鎮痛法」は脊髄の近くにカテーテルを入れ直接、鎮痛剤を投与する療法で、通常よりも少ない量の薬剤で、より高い鎮痛効果が得られます。脊髄鎮痛は痛み以外にも、腹水が増えてお腹が張って辛い症状にも効果があります。これらの治療は適応が患者様個々に異なりますので、主治医の先生方とご相談の上で、導入を決定します。がんの初期の段



がん疼痛治療科 部長 徳川茂樹
(日本麻酔科学会認定医・専門医・指導医)

階からインターベンション治療で“痛み”を軽減することにより、がん患者様が入院から在宅医療に移行し、日常生活への復帰による「生活の質」（quality of life）向上に加えて、その後の治療成績が格段に改善されるケース等も見られるのです。

がんを治療中で何らかの“痛み”に悩まれる方は、時期を問わず当院の窓口にご相談下さい。がん患者様のあらゆる“痛み”の軽減に向けて、一人ひとりに最も適切で安全な専門的疼痛治療を提供させていただきます。



神経ブロック療法を行う徳川部長



藤本泰久医師が東久邇宮記念賞を受賞

当院乳腺外科部長の藤本泰久医師が東久邇宮記念賞を受賞。4月18日に新大阪で行なわれた授賞式に、全受賞者55名のうち30数名の方と共に出席しました。

放射線治療科が、リニアックの1500日間の無停止・連続稼働の達成により表彰

当院・放射線治療科は2019年1月8日から導入したリニアック（放射線治療装置）の無停止・連続稼働1500日超を達成。リニアックを開発する医療機器メーカーのバリアン・メディカルシステムズから、5月17日、「不断の努力により高い品質が保たれ、患者様への安全性の高い放射線治療が継続された」ことにより、表彰を受けました。同表彰は医療機関のリニアック連続稼働が500日・1000日・1500日を超えた場合に授与されるもので、これまで表彰は全国10数施設に留まっています。グループ病院においても、最長レベルの「1500日超」表彰は、強度変調放射線治療（IMRT）を常時提供する高精度放射線治療施設としては初となります。

日本医学放射線学会認定「放射線科専門医修練機関」である当院・放射線治療専門医・研修指導者の藤原聖輝医師は、「一人ひとりの患者様に絶えることなく、安全な医療を長く提供し続けることが出来たことを、大変、誇らしく思いますし、バリアン様との連携や情報共有等のサポートなしには、成しえなかったことと、大変、感謝しています。医療面では放射線治療の副作用に関して、今後、東洋医学を活用し有害事象を減少させる取り組みを進めていきたい」と意欲的に語りました。

また、杵谷隆史副技師長は、「放射線治療における診療放射線技師の主な仕事は、患者様に対しての正確な放射線の照射と、放射線治療装置の安全性・品質の担保です。後者は、車に例えると整備士のような業務で、医療機器を問題なくきちんと稼働させるのが重要な役割です。機器の故障・停止が発生すると、治療を受けていただく患者様にとって大変な不利益です。日々の確認作業・定期的な点検を怠らず、勉強会・学会等にも積極的に参加し学習する等の不断の積み重ねが、1500日連続稼働につながったものと思います。連続稼働は患者様のためになることで、何よりもそれが嬉しい」と笑顔で語りました。



(左から) 本田道子看護師、東野友哉技師、瀬島亮汰技師、太田仁八医師、藤原聖輝医師、杵谷隆史技師、相田龍之介技師

● 新任医師紹介 ●



整形外科
鳥田敬一朗
(とりだけいいちろう)

2018 年卒

4月から勤務させていただいております鳥田敬一朗と申します。

一般的な整形外科疾患を中心に診察させていただいています。少しでも気になる症状がありましたら気軽にご相談ください。分かりやすい説明を心掛けていますので、よろしくお願い致します。



整形外科
上本真輝
(かみもとまさき)

2021 年卒

はじめまして、関西医科大学附属病院から来ました上本と申します。整形外科医になってからは3年目となります。1年目は大学病院で膝・股関節・外傷・脊椎を分野ごとにローテーションし専門 Dr の指導の下で研修しておりました。2年目は萱島生野病院にて一般外傷を中心とし臨床経験を積んでおりました。吹田徳洲会病院では、この2年間で学んだ知識・技術を基に患者様に貢献できる医療ができるように精進していく所存です。ご指導ご鞭撻の程よろしくお願い致します。



眼科
米田貴博
(よねだたかひろ)

2017 年卒

はじめまして。私は米田貴博と申します。光栄にも眼科医師として吹田徳洲会病院に加わることになりました。患者さまの視力を守るため、最新の機械と治療法を駆使し最良の医療を提供したいと思っています。手術加療依頼や目に不満を訴えられている方がいらっしゃれば、遠慮なくご紹介いただければ幸いです

臨床工学室 関西・大阪ブロック新入職者合同研修

5月20日、臨床工学技士新入職員を対象とした関西・大阪ブロック新入職者合同研修が当院講堂で行なわれました。「新社会人としての意識の持ち方を学ぶだけではなく、病院を越えたつながりをもってほしい」という技士長たちの願いにより始まったこの研修は、本年度で3回目を数えます。

まず冒頭に山野辺基大阪ブロック長、ならびに一般社団法人徳洲会・大橋壮樹副理事長の挨拶があり、臨床工学技士としての意識の持ち方について聴講。続いてビジネスマナーや PDCA サイクル、また災害対策シミュレーションなどのグループワークを中心とした研修を受講しました。研修のはじまりは緊張の面持ちの新入職員たちも、時が経つにつれ笑顔を見せ、和やかな雰囲気の中で合同研修は終幕しました。



医療法人徳洲会
吹田徳洲会病院
06-6878-1110 (代表)

介護老人保健施設
吹田徳洲苑
06-6878-9100 (代表)



〒565-0814 大阪府吹田市千里丘西21-1
<https://www.suita.tokushukai.or.jp>